

2014年(平成26)2月

カルメル 霊性センターニュース



受胎告知(1430年頃) フライブルグ アウグスティナ博物館

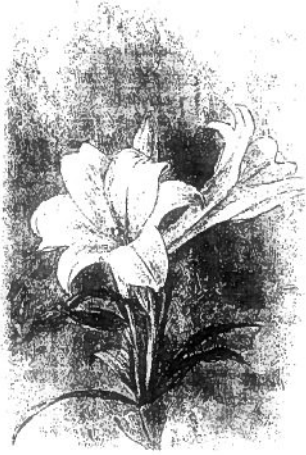
2014年2月

295号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二卷

第三章 平和を愛する善良な人

1 平和と思いやり

まず、あなた自身のうちに平和を保ちなさい。そうすれば、他人にも平和を分けることができる。平和な人は、偉大な学者よりも他人のためになる。感情的な人は善さえも悪に変え、また悪を信じやすい。ところが、平和を愛する人は、すべてを善に変える。心を平和に保っている人は、誰をも疑わないが、不平を言い怒りっぽい人は、いろいろな疑いに苦しめられる。その人は自分も平和を知らず、また他人の平和をも乱す。またそうした人は、しばしば言ってはならないことを言い、自分のしなければならぬことをおろそかにする。彼は他人のすることに気をつかい、自分の務めは怠る。だから、あなたはまず、自分の霊魂について熱心でありなさい。そうすれば自然に、隣人のことにも熱心に注意することができるであろう。

2 悪人に対する親切

あなたは、自分のおこないを弁解し大目に見るが、他人の弁解には耳をかさない。むしろ自分を責め、兄弟をかばうのが正しいことである。他人に忍耐してもらいたいならば、あなたも他人の短所を忍ばなければならない。

あなたは、自分以外のいかなる人にも、怒ったり非難したりすることのない真の愛徳と謙遜から、どれほど遠いかを知らなければならない。平和を愛する善良な人と仲よく生活することは、大してむずかしいことではない。それは自然に皆の好むことである。誰でも平和を喜び、自分と同じ意見の人を愛するからである。しかし、頑固でふしだらな悪い人、あるいは自分に逆らう人と共に、平和のうちに生活することは、神の恵みであり、称賛すべきことであり、勇気のある徳である。



神の考えは

あまりにも深く

人間の考えとは違います

神の時を 待つことを

学びましょう

～三位一体のエリザベット～

新しい年が始まり早くも時間は加速して過ぎていきます。
過ぎ去っていくだけではなくわたしたちは時間に振り回され、
過ぎ去る事柄の中に埋没しているかもしれません。

わたしたちは度々、自分の考え、計画を押しすすめ、それだけしか見え
なくなることがあります。
全くの闇に覆われてしまうときにも、神が慈しみ深い父であることを
思い出して、「神の時」を待つ事を学びたいものです。

夜明けが来れば、闇の世界だったところに道が現れます。
心配はいりません。

「神の時」が来て、現れる険しい道を、主ご自身が、
わたしたちといっしょに歩んでくださいます。

主は、「わたしたちと共におられる神」—インマヌエルなのですから。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『いのちの道』より、サンパウロ社

人を赦す (5)

くのり
九里 彰

妙好人、因幡の源左の「おらは、まんだ人さんに堪忍してあげたことはござんせんやあ。人さんに堪忍してもらってばかりおりますだいな。」という答えは、自分は「人を赦す」どころではない、逆に自分は「人から赦される」べき罪人にすぎないという意識の表明である。

これをキリスト教的に言えば、「まことの謙遜」ということになる。徹底的に自分の罪深さを知りぬいたゆえに、もはや人を裁くことができなくなっている状態である。

ところが、私たちには、いつまでも何らかの自負心、自尊心が残っており、ふだんは謙遜であるかのように振る舞っているが、ひとたびそれが傷つけられるともう我慢ができなくなる。もうその人を赦せなくなる。この間の人間心理をアビラの聖テレジアは実によく見抜いている。

この家では、またこの家でなくとも、すべて完全になりたい人は、「私の方に理屈がある」「あの人たちがこんなことをする理屈はない」「私に対してこんなことをする人は理屈に合っていない」などという言葉から、千里も遠く離れていなければなりません。(『完徳の道』13・1)

人から侮辱された時、私にはそのような侮辱を受ける理由がないと反発するわけだが、その根には自分のプライドが傷つけられたことがある。そしてそれは、自分の評価を高めようとする、名誉を求める人間だれしもが持っている心の傾きに結びついている。侮辱は人から蔑まれ、低い評価を受けることであり、尊敬され、高い評価を受けようとしている人間の心には、受け入れがたいこととなるのである。

内心の動き、ことに人より上になりたいという動きには特別によく注意してください。「私の方が古参だ」「私の方が年長だ」「私の方がもっとよく働いた」…。もしこんな考えが頭に浮かんだならば、すぐさまえぎってしまったらなりません。それにこだわったり、それを口にしたりするようなことがあれば、まったくペストです。(同上 12・4)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話（77）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

カタルーニャへ行くか行かないか？

十字架の聖ヨハネの生涯における他の出来事には、カタルーニャに関する話もあります。ペニュエラの聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）が、1591年の8月か9月に、旅行で通りかかった、十字架のヨハネという、彼と同じ名前の別の司祭に出会いました。彼はコルドバ出身でした。マドリッドの長上たちは、彼をカタルーニャへ赴任させようとしていました。このもう一人の十字架のヨハネは、自分と同じ名前の聖人がペニュエラの孤独の修道院にいて、そこに留まっていることを知りました。

午後、二人は一緒に野原へ出かけました。コルドバの神父は、彼がトルトサの院長に任命されたので、そこへ行かねばならないと語りました。けれども嫌気と特別な苦しみを感じ、カタルーニャへ行くのを拒んでいるとのことでした。聖ヨハネはその話に熱心に耳を傾け、彼に与えられた職務を放棄するためには、合法的に、できる限りのことをするよう彼に助言しました。そして次のような助言をしました。すなわち、マドリッドへ行き、総長代理であるニコラス・ドーリア神父と話すように。単純に自分の状態を彼に説明し、彼から言われたことを実行するように。彼が新しい赴任地へ行くよう命じるならば、拒否してはいけない。あなたを助けることのできる神に信頼し、お辞儀をしてその場を立ち去りなさい。この助言と共に、一層穏やかに落ち着いて旅を続けなさい。彼は総長代理に会い、総長代理は彼に耳を傾け、アンダルシアにもどることを認めました。こうして彼は、同名の神父から受け取った賢い助言に感謝しながら、アンダルシアにもどりました。対話的な従順の、きわめてはっきりした事例でしょう。



主の奉獻の祝日(A)

みことばのひびき

(ルカ2:22~40)

本日私たちはイエス様が誕生されてから40日後の出来事、すなわちイエス様がエルサレムの神殿で奉獻された事をお祝いします。主が神殿に入ってこられたとき、ほとんどの人は気づきませんでした。そのとき、シメオンとアンナという年老いた人だけがその重要さに気づきました。

イエスの両親マリアとヨゼフは、イエス様が律法の規定通りに完成するために選ばれた民の子として来たのだということを示します。貧しい人たちのいけにえを捧げ、初子を主に奉獻します。このことから私たちが学べる一つのことは、私たちも皆、世の光であるイエス様に会おう全ての人たちに運んでいくように召されているということです。

イエス様は真に、「闇に輝く光」、「全ての人を照らす真の光」です。イエス様が光であると最初に宣言した人は、徳の高いシメオンです。シメオンは聖霊に導かれて神殿に入ってきて、全世界が待ち望んでいたメシアである「油注がれた主」を自分の目で見ます。シメオンは深く感動し、この贈り物を主に感謝して、イエス様がユダヤの一人の男の赤ちゃんであるだけでなく、「異邦人を照らす啓示の光、民イスラエルの誉れ」であると言います。

シメオンは幼子イエスについて、「啓示の光」であるだけでなく、「反対を受けるしるし」でもあると付け加えます。シメオンは十字架の神秘について預言的に知っています。シメオンはまたマリアが息子の贖いの犠牲に緊密に、そして痛ましく結びついていくであろうことを見ます。「剣で刺し貫かれる」ということはマリアにとって死の経験なのですが、キリストの光の前に「心にある思い」があらわにされるので、それは多くの人たちに新しい生命を与えます。福者ヨハネ・パウロⅡ世は「シメオンの言葉はマリアにとって第二の受胎告知のようです、なぜなら彼女の息子が、誤解と悲しみの中で使命を達成することになる現実の歴史上の事態を告げているからです。この予告は、一方では神の救いの約束の達成におけるマリアの信仰を確認し、他方では苦しむ救い主の傍らで苦しみへの信仰の従順を生きなければならないこと、マリアの母性は神秘的で痛ましいものになるであろうことを明らかにします。」と書いておられます。

イエス様のアイデンティティをはっきり認め、イエス様は何をするために来られたのかを理解すればするほど、私たちはイエス様の光を自分の心の神殿の中に迎え入れようとより強く心を動かします。シメオンとアンナのお手本に従って、私たちはどうやって忍耐強く信仰深くなれるか、どうやって日々聖霊の微妙な促しに従うか、どうやって十字架上の主ご自身のお捧げと一致して私たちの苦しみや人生への挑戦を主に捧げるかを学ぶことができます。喜びにあふれた主の光の運び手として主にご奉仕するために、日々主に集中し続けましょう。

反省のためのポイント：

- ・私は自分のまわりの人たちに対してキリストの光の道具となっているでしょうか？
- ・どのようにしたら私の心の中にもっと深くキリストの光を迎え入れることができるでしょうか？

(Sr. Paulina)

「あなたがたは世の光である」(マタイ 5, 14)。

A年の年間第四主日、普通には、「福音」としてマタイの山上の説教の冒頭が読まれるのですが、本年は、「主の奉献」が優先されましたので、その箇所(マタイ 5, 1-12)は割愛されています。しかし、素通りするには、あまりにも重要な箇所であり、また、しっかりと把握することが、続く山上の説教(マタイ五-七章)を理解するうえに不可欠と思いますので、この点からは入って行きましょう。

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下されると、弟子たちが近くによって来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた」。この短い文章の中で波状的に出てくる一連の動詞には、イエスが、御父から送られた唯一の真実の教師として立つ、その固い決意が表出されています。イエスが眼にする「群衆」とは、地上のイエスが物理的に見た限りのものを超え、むしろ、「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ 28, 18)と、この福音書の最後で言われるように、全人類のはずです。イエスは、カルワリオの山、十字架の上での死を経て、復活によって、神のご計画に逆らうすべての権勢に打ち勝つ方と開示されました。「山に登られた」、イエスにとって究極の山とは、カルワリオ、十字架の上、そして、復活、昇天なのです。がしかし、ユダヤ人にとって、「山」と何の限定もなしに言われれば、シナイ山です。モーセは神と民を出会わせる仲介者となって山に登る、そして、律法を、神と人間との出会いを真実なものとして保証し、確実にするものを与えられます。そのように、イエスは、天の御父とわたしたち人間を出会わせる方として十字架の山に登ります。そして、律法を否定するものではなく、完成するもの、御霊を、全人類のために受けます。

新しいモーセ、イエスは、ご自分を先生とするすべての人たちの上に聖霊を溢れるほどに注ぐ方です。実に、律法とはイエスの生き方を人間の言葉で表現したものですから、その律法と聖霊は、対立するものでも、矛盾するものでもありません。むしろ、どちらも神から与えられるものとして、相互に照らし合い、説明し合い、求め合っているものです。イエスの前に真実に立ち、イエスに教えられ、絶え間ない改心の内に生き続けてゆくとき、「あなたたちは世の光である」とのイエスの慈しみ溢れる声を聴くのです。ルカ渡辺幹夫

年 間 第 六 主 日 (A) (マタイ5：17-37)

永遠から、この世界の始まる前からの神のご計画は、わたしたち皆が一人残らず救われ、ご自分の栄光をお与えになることです。今日読まれる三つの朗読のどれもが、わたしたちを救いに導く神の知恵について、隠されている神秘、神の真のいのちについて美しく語っています。このことを知ったわたしたちが、神の意志に従って日々神と共に生きるようになるためです。しかし神は何一つ強要なすることはなく自由意思を尊重なさいます。正しい選択をして神と共に生きるためには、神の知恵が必要です。

幸いなことに、永遠の神の知恵はイエス キリストという人間となってわたしたちのところに来てくださいました。イエスは内的にまた外的にどのように生きるべきかを教えてくださいます。今日の福音でイエスは、正しい選択をして永遠に神の内に生きるために、日々神のご意志を大切に生きるよう教えてくださいます；“掟を守り、これに従って生活することは完成をもたらす”と、掟の最初の状況を踏まえ本質をお教えになります。

ファリサイ派の人々や律法学者は掟について人情味のない形式的な見方をしています。掟が彼らの内面に浸透していないからです。イエスは掟の求めていること、その目的をもっと鋭くとらえ、“人を殺すこと”と同様に“人に腹を立てること”また“姦淫すること”と同様に“みだらな思いを持って人を見ること”を厳しく禁止されます。当時許されていたように思える“離縁すること”“誓をたてること”も禁止なさいます。自分に忠実に“はい”と“いいえ”を表明すること。このようにしてイエスはわたしたちに自分の存在の深みから神の掟に従って歩む道を示し、招いてくださいます。

時間の流れの中で希薄になり、曲げられてしまった一つひとつの掟の持つ最初のセンスや純粋さがイエスによって元に戻されてきました。イエスは、神の掟に対するわたしたち自身の思いや姿勢を顧みることによって、真の愛の根源である神に私たちを導いていく、隣人への愛へと招いてくださいます。人間の本性は時折この本物の生き方に抵抗を感じてしましますが、真のいのちを得るためには、どうしても、わたしたち一人ひとりにイエスが促し、大事にしてほしいとささやいてくださる、イエスと共に生きる道を選ぶべきです。私たちは現代世界の生き方に倣うことはできません。現代は、憎しみ、戦争、嫉妬、避妊、妊娠中絶、婚姻における不義、離婚等々の世界です。今日イエスが響かせてくださるメッセージは大変時宜にかなったものです。

自分をふり返ってみましょう：

神の掟に対する態度は？姿勢は？

どのようにして神の掟を希薄なものにしていますか？

“はい”は“はい”、“いいえ”は“いいえ”とはっきり表明していますか？

(話し手や自分の状況に左右されずに)

(Sr. Paulina)

「あなたがたも聞いているとおり、・・・・と命じられている。しかし、わたしは言うておく、・・・・」(マタイ 5, 38-39 ; 43-44)。

最初の「・・・・」のところには、「目には目を、歯には歯を」(マタイ 5, 38)、そして、「隣人を愛し、敵を憎め」(マタイ 5, 43) とのわたしたちの常識にもまだ分かりやすい言葉が、同害刑法、加害者が相手に加えたと同じ危害を刑として受ける法の最も原始的な表現と言われるものが、入ります。そして、受動形、「命じられている」でむすばれています。どのような権威から命じられているのでしょうか、それは、言明されてはいませんが、「モーセを通して、神から」と前提されます。「目には目を、歯には歯を」は、人間の歴史が教えるところでは、これさえも歯止めにならないで、エスカレートしてゆく傾向に、人間の行動はあります。このハムラビ法典にもある大変古い法は、この傾向を押さえ込むための人間の知恵の努力の極限、と言わなければならないかもしれません。「隣人を愛し、敵を憎め」。これは、「隣人を愛する」にも、相手の出方があってこそ、つまり、愛の原点は自分の内にあるのではなく、相手にある、とすることだ、と言われてもいます。

さて、二番目の「・・・・」には、イエスご自身の言葉、言葉と言うよりも、イエスが実際に、特に受難の時に生きられた行動、反応、態度が示されています。「悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら、左をも向けなさい」(マタイ 5, 39)、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ 5, 44) と、先の「命じられている」ものの領域を遥かに大きく飛び出た、イエスの知恵から湧き出る超絶した態度に招く言葉です。この「わたしは言うておく」、この一人称単数の断言は、イエス以前にも知られていた次元、掟としてではなく、むしろ、福音、良い知らせ、イエスによって新しく開拓された恵みの次元として宣言されるものです。この領域は、もはや、人間の善悪の判断基準を基盤にしてではなく、神の判断基準、他者を生かすことに自分をも生かす秘訣を見出す知恵を基盤にしています。あまりにも崇高で、人間の眼にははっきりした足場とも見えない、しかし、イエスは、ここに、最も堅固な足場の上に、ご自身の命の基盤を置きます。相手が、愛に値すると自分が判断するからではなく、愛される喜びを知る者に変える創造的な愛の可能性が開かれているから。この領域には、わたしたち人間も、祈りながら、神との対話の内に、入って行けるのです。ルカ渡辺幹夫

昨年暮れのこと、何気なく見るともなく見ていたテレビの番組で、「冬の夜」という明治45年の文部省唱歌を紹介していました。

古い古い歌をなぜ取り上げていたのかその辺りのことは分からずじまいですが、ニュースキャスターの次のような言葉に俄然注意が向いたのです。

「いくさの手柄という個所は、現在はふさわしくないという理由で昔の思い出となおされています」

冬の夜外は吹雪、家の中はいろりの火がとろとろと燃え、お母さんは衣を縫いながら子どもたちに春の遊びの楽しさを語り、傍らで縄をなうお父さんは過ぎしいくさの手柄を語るという、寒い冬の夜の家族団らんを温かく歌う唱歌でした。この中の「過ぎしいくさの手柄を語る」という歌詞がよくないので、「過ぎし昔の思い出語る」と戦後に改変したということでした。

明治45年に歌われる過ぎしいくさとは、日清戦争なのか日露戦争なのかとにかく勝利のいくさであったでしょう。父親の手柄話を子どもたちは誇らしく瞳を輝かせて聞き入るといふ情景は、その時代その当時歌にして歌いたい出来事であり、何の疑問もない筈でした。ところが状況、価値観の変化に伴い具合が悪い一節となったので、ここを削って無難なものに入れ替えたというわけです。妥当な考えのようですが私はそれを聞いた瞬間鋭い悲しみに襲われ、胸の奥深くが疼いたのです。

痛みはどこかから聞こえる誰かの悲鳴のようであり、誰かのすすり泣きのようであり、また誰かの怒りのようでもありました。同時にまた、時間の流れの中をさまざまな出来事の中を生き続けてゆくことの、誰もが負うべき限界、罪とも云っていいものを知らされる気がして、切にゆるしを願うしかない私の深い内部の疼きのようでした。

私は小学校3年生の時に終戦を迎えました。

遠い昔の、そしてあまりにも慌ただしい時世のことではっきりとは覚えていないのですが、敗戦により学校の教科書にそれまでとは違った都合の悪い部分が生じたらしいのです。私たち児童は先生の指示に従ってその部分を墨で黒くぬりつぶしたのです。硯に墨をすって筆に含ませ、教科書に黒い線をいくつも引いたのです。

記憶も恐ろしくぼんやりしていて、何を消したのかその時の自分の気持ちも何もないのですが、ただひとつ、先生が窓辺に立って外を向いていた姿がもや

もやした記憶の底から浮かび上がります。 墨をぬる個所の次の指示を待っているのに、先生はなかなかこちらを向かなかったのかもしれない。

小さな子どもが先生の指示で教科書を黒くぬりつぶす、みんなで歌い継いだ唱歌の詞を一部消し去って別のものと入れ替える、これは何とも横暴で無茶な話ではないかと思うのです。いえ、私の思いなど越えて、人間が生きるという根幹に抵触することではないでしょうか。 その真意は如何なるものなのでしょう。 慙愧懺悔、適宜の処置、その場しのぎ、いずれであるにせよ「いくさの手柄を語った」ことをなかつたことにはできません。 たとえ過ちと分かつて「昔の思い出」などとぼやかして歌い続けてどうするというのでしょうか。

小学校で仲良しだった国子ちゃんには靖子という名前のお姉さんがいました。「お姉ちゃまとわたしで靖国なの」とうれしげによく云っていました。また長じて、洋子と名づけられた仲間と初めて顔を合わせた自己紹介の場面で、「洋子という名には太平洋戦争への父の士気高揚の思いがこめられていると聞かされ、わたしは自分の名前が好きではないのです」と云ったのが深く心を打ちました。 彼女の尽くし得ぬ思いをその時思わずして分け持ったのでしょうか、今思いだしても慰めようもない複雑な切なさが迫ります。

どのような時代のどのような環境に生まれ落ち、どのような人達とどのような出来事にめぐり合い、どのような岐路でどのような選択をするか、そこには当然個人の域を越えるものもあるのですが、人生はすべてがかけがえのないものであり、墨でぬりつぶしたり、都合よく改変したりはできないものです。 どれほど苦しくあっても、しっかりと明けを信じる力、しっかりと苦しむ力、しっかりと泣く力を祈り求めながら、尽くしてゆくものと思っています。

胸の奥の疼きは今、共に祈ってくださるお方の筆舌に尽くし難いうめきのようにも思えて、私は信頼をもって詩篇をひらきます。

主よわたしの祈りをお聞きください
わたしの叫びをみ前に至らせてください

いのちの言葉 2月

心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。

(マタイ 5・8)

イエスの教えは、この山上の説教で始まります。ティベリアス湖を見下ろすカファルナウム近郊の丘に登られ、イエスは、ユダヤ教の教師たちがするように腰を下ろすと、群衆に向かって「幸いな人」について語られました。この「幸い」という表現は、主のみ言葉をさまざまな形で生きた人をたたえるのに用いられ、旧約聖書の中には何度も出てきます。

そこで弟子たちはすでに、イエスの語られた「幸いな人」の姿のいくつかを知っていました。しかし「心の清い人々」は、詩編にあるように「主の山に登ることができる」(*1)だけでなく、「神を見る」ことさえできるというのは、初めて耳にすることでした。これほどの素晴らしさに値する「心の清さ」とは、どのようなものでしょうか。これについてイエスは何度も語っておられます。ですから、真の清さを知るためには、その源でおられるイエスの教えに従うことが求められるでしょう。

心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。

イエスは魂を清める最高の方法を次のように教えてください。「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」(*2)と。ですから魂は、宗教祭儀を通してというよりも、神のみ言葉によって清められるのです。イエスのみ言葉は、人間の言葉とは異なります。キリストはご聖体の中に現存されますが、み言葉の中にもおられ、み言葉を通して私たちの中に入ってこられるのです。そしてみ言葉が働くようにするなら、私たちは罪から解放されて自由になり、清い心を持つことができますでしょう。

ですから心の清さとは、み言葉を生きた実りです。イエスの言葉はすべて、私たちが執着から解放してくれるからです。私たちの心は、神様とその教えにとどまっていない時には、物や人、自分自身に執着してしまうものです。しかし心が神様だけに向いているなら、神様以外のものはすべて消え去っていくでしょう。

このように生きるためには、イエスに、そして神様に向かって、一日に何度も「主よ、あなたにまさる善はない！」(*3)という詩編の言葉を言うことが助けになるかもしれません。特に、心がさまざまなものに執着してしまい、よくない思いや感情、情熱に引きずられて、何が善なのか分からなくなったり、心の自由を奪われそうになる時、この言葉を繰り返しましょう。

また、よくない広告やテレビ番組を前にしても、見ていいというわけではありません。それを断ち切り「主よ、あなたにまさる善はない」と言うなら、自分の殻から外に出て、神様への愛をはっきりと言い表す一歩となり、私たちは心の清さを保つことができますでしょう。

また時には、自分と神様の間に活動や人が入り込んで、障害物のように神様との関係を妨げるのを感じるかもしれません。その時も、神様に「主よ、あなたにまさる善はない」と言

いましょう。こうして私たちの思いは清められ、心の自由を取り戻す助けとなるでしょう。

心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。

み言葉を生きるなら私たちは自由になり、清くされます。み言葉は愛であり、愛はその聖なる火で、私たちの意向と内面のすべてを清めてくれます。なぜなら聖書にあるように、「心」は人間の最も深い知性と意思の中心だからです。

さて、イエスが私たちにお命じになる愛、私たちが「幸い」な者となることができる愛があります。それは「相互愛」です。イエスがされたように、相手のために命を与える覚悟で、互いに愛し合うことです。お互いの愛があるところには神様がおられ、その交わりの中には、澄みきった清らかな雰囲気生まれます。私たちの内に清い心を生み出すことがおできになるのは、神様だけです(*4)。相互愛を生きるなら、み言葉が働いて実りをもたらし、私たちを清め、聖なる者としてくれるでしょう。

人はひとりでは、世の誘惑に負けずに生きるのが難しいものです。しかし相互愛があるところには健全な環境が生まれ、清さを守りながら、真のキリスト者として生きることができるようでしょう。

心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る。

たゆまぬ努力によって得られる、心の清さの実りとして、私たちは「神を見る」ことができます。つまり、自分の生活や人類の歴史の中で、神様がどのように働いておられるかを理解できたり、心の中で神様の声を聞き取ることができるようになります。また、貧しい人やご聖体の中、み言葉の中、兄弟との交わりや教会の中など、さまざまところで神様の存在を感じ取ることができるようになります。

このように生きることは、「顔と顔を合わせて」(*5)永遠に神様を見る時まで、「目に見えるものによらず、信仰によって」(*6)歩みながら、この地上で、すでに神様の存在を味わうことだと言えるでしょう。

キアラ・ルービック

*1 詩編24・4参照

*2 ヨハネ15・3

*3 詩編16・2参照

*4 詩編51・12参照

*5 コリントー13・12

*6 コリントニ5・7

* 今月の言葉は1999年11月に発表されたものです。

★いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 2月9日(日) 13:30~

神奈川 ｶﾄﾘｯｸ藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 2月9日(日) 14:00~

愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

近畿 2月23日(日) 13:30~

大阪 ｶﾄﾘｯｸ香里教会

連絡先

フォコラーレ:

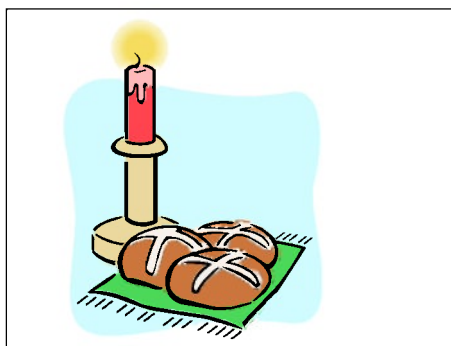
03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（173）



イエスの隠れた生涯

イエスの生涯のほとんど部分は、私たちには隠れています。イエスはナザレで両親と共に、「その権威のもとで」（ルカ 2・51）暮らし、そこで「知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された」（ルカ 2・52）のです。私たちがイエスのことを考えると、たいてい彼の言葉や奇跡、受難、死、復活のことを考えます。しかし、それらすべてのことの前には、イエスはすべての偉大な人々や偉大な町々や偉大な出来事からは遠く離れた小さな町で単純な隠れた生涯を送ったことを決して忘れるべきではないでしょう。イエスの隠れた生涯は、私たち自身の霊的旅路にとって大変重要です。私たちがもしイエスの後に言葉と行いをもって従い、神の国のために働こうとするならば、何はさておき、イエスの単純で人目をひかない、きわめてありきたりの隠れた生活をもって、彼の後に従って行こうと努めなくてはなりません。

(0812)

現実に存在すること

今日、イエスはどこにおられるのでしょうか。イエスは、彼を信じ、洗礼とご聖体への信心を表明する人々が一つの体となっているところにおられるのです。私たちが、信者の体（団体）について、ナザレのイエスへの共通の信仰を分かち合う人々のグループとして捉えているかぎり、イエスは霊的刺激を与える歴史的人物としてとどまります。けれども、イエスがご聖体の内に取りられた体こそ「彼の」体であると悟るならば、私たちは現実に存在するものとは何であるかを理解し始めるのです。イエスの体と血という賜物の内に現存されるイエスは、これらの賜物によって形づくられた信徒の体の内に現存するようになるのです。キリストの体を受け入れる私たちは、生きたキリストとなるのです。

(1014)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

聖テレジア生誕500年記念祭の聖歌、祈り、巡礼ガイド 既に準備段階に入る

2014年1月17日



この記念祭の司牧チームの会議が、1月の第2週目に聖テレジア生誕の家で開催され、聖テレジアの祝祭に関するいくつかの重要なプロジェクトの基盤が決められました。第一総長顧問(副総長)のエミリオ・ホセ・マルティネス神父もこの会議に参加しました。

会議において、記念祭の祈りはホセ・ヴィセンテ・ロドリガス神父が担当となり

喜んで受諾されました。また聖テレジアの聖歌はフランシスコ・パラソン氏が作曲担当に決まりました。彼は、スペイン司教協議会の要請で十字架の聖ヨハネの帰天400周年のために公式聖歌を作曲しました。聖歌作詞は、詩人でジャーナリストのカルロス・フェルナンデス・アガンソ氏が担当します。彼はアヴィラの聖テレジア書簡集のために国から表彰されていて、イエスの聖テレジアのみならず、十字架の聖ヨハネの作品にも広い知識をもっています。この二人は任務を受けて、既に500年記念祭のための公式聖歌創作にとりかかっています。

また聖テレジア案内書の索引も各章を担当する執筆者とともに承認されました。この仕事に携わるのは、跣足カルメル修道会総長ザベリオ・カニストラ神父、アヴィラ教区のヘスス・ガルシア・ブリッヨ司教、アビラ市のミゲル・アンヘル・ガルシア・ニエト市長、ラ・サンタの修道院長ダヴィド・ヒメネス・ヘレロ神父、ダニエル・デ・パブロ・マロト神父、フランシスコ・ハビエル・サンチョ神父、マヌエル・ディエゴ・サンチェス神父、ミゲル・マルケス・カッレ神父です。

その他、司牧上のことがらも話し合われました。特に、500年記念祭事務局のP.アントニオ・ゴンザレス神父から、数か月中に記念祭のための要理と徹夜祭の準備が整うとの報告がなされました。

*****絵本のための小さなおはなし*****

「海の底の真珠のお話」

いかれポンスキーがいました。巨人で、一つ目で、足がたこのようにいっぱい生えています。彼は宇宙からの移民です。漂流していたところ、地球のあまりの青さを見そめて、ここへ移住することに決めたのでした。

彼は、みてくれがあまりにめだつので、アクアリングをつけて海の底に潜んでいることのほうが多いです。食べ物は生まれ故郷に茂っていたのと似ている赤や緑の海草です。こんなみかけでは、誰も怖がって近づきません。一人暮らしで、さびしいのでした。

いかれポンスキーにも、一つの楽しみがありました。昔々のある朝、イエスさまがこぼした涙が一つの貝の中に入り、大きな輝く真珠になって育ったのです。アクアリングをつけていると手真似でしか合図できません。でもその巨大な、聖書時代からある貝に近づくと、巨人は、胸に両手をあてて、すうっと前へ揃えて差し出します。「愛しているよ」という普遍的な表現です。

そうすると、貝はそっと殻を広げて、中にある神秘的な薄紫の真珠を見せてくれるのでした。 神秘の真珠。愛のしずく。



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2014年 4月17日(水)～20日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2013年12月24日(火)～25日(水)《講話なし、夕食なし》
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき どなたでも参加できます

2014年

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	古川利雅神父
11月13日	神に生かされて貧しさを生きる	中川博道神父
12月4日	無原罪のマリア	渡辺幹夫神父

2015年

3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父
------	---------	--------

3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

どなたでも参加できます

2014年

4月11日	ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父
7月4日	カルメル山の聖母	中川博道神父
10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	渡辺幹夫神父

2015年

1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父
-------	-------------------------------	--------

4. 奉獻生活者の為の黙想会

2013年

12月27日(金)	18時～2014年1月5日(日)	古川利雅神父
-----------	------------------	--------

2014年

8月 1日 (金) 18時～	8月10日 (日)	福田正範神父
8月15日 (金) 18時～	8月24日 (日)	古川利雅神父
10月10日 (金) 18時～	10月19日 (日)	福田正範神父
12月27日 (土) 18時～	2015年1月5日 (月)	福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2014年

4月25日 (金) 16時～27日 (日) 16時

11月22日 (土) 15時～24日 (月・振休) 16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2014年

9月13日 (土) 15時～15日 (月・振休) 16時

7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2014年

4月 2日 (水) 16時 (受付)～4月 4日 (金) 昼食まで「十字架の神秘」

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

2014年

5月23日(金)20時～25日(日)16時「聖霊と祈り」

11月 1日(金)20時～ 3日(月)16時「慈しみの愛と祈り」

※) 注 2014～15年の予定は、今後変更の可能性があります。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



2014年

カルメル会四旬節講話シリーズ

場所: カトリック上野毛教会聖堂

時間: 日曜日 午後2:30～ 講話と主日ミサ

共通テーマ:「イエスの聖テレジアのカリスマとその広がり」

3月 9日

「テレジアの信仰共同体の中での影響」

渡辺幹夫(カルメル修道会)

3月16日

「二人のテレジア アビラのテレサとリジューのテレーズ」

伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

3月23日

「テレジアと出会った十字架のヨハネ」

九里 彰(カルメル修道会)

3月30日

「テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト」

松田浩一(カルメル修道会)

4月 6日

「エディット・シュタイン —— 出会いと霊的絆」

須沢かおり(ノートルダム清心女子大学教授)



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30～12:00≫ 夜のクラス ≪19:15～20:45≫

2014年 2月14日

3月7日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:00のミサ後～12:00≫ 夜のクラス ≪19:30～21:00≫

18	1月24日	「主の祈り」
19	2月7日	「キリスト者が大切にしている事」
20	2月21日	「秘跡」(1)
21	3月14日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2014年～2015年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	1月 11日(土)～ 12日(日)	念祷生活	今泉健神父
	5月 24日(土)～ 25日(日)	キリスト教の人間共同体	松田浩一神父
	7月 12日(土)～ 13日(日)	聖母マリア	今泉健神父
	9月 6日(土)～ 7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
	11月 1日(土)～ 2日(日)	死についての黙想	今泉健神父
2015年	1月 10日(土)～ 11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	2月 1日(土)		九里彰神父
	4月 5日(土)		九里彰神父
	6月 7日(土)		九里彰神父
	9月 13日(土)		九里彰神父
	11月 29日(土)		九里彰神父
2015年	2月 7日(土)		九里彰神父

【水曜の黙想】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	1月 15日(水)	キリスト信者の祈りのカテキズム	松田浩一神父
	2月 5日(水)	イエスの奇跡	今泉健神父
	3月 26日(水)	四旬節の心	松田浩一神父
	4月 16日(水)	キリストの受難と死	今泉健神父
	5月 14日(水)	キリストの教え(神の救いの御計画)	松田浩一神父
	6月 18日(水)	イエスの御心を思う	今泉健神父
	7月 23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
	9月 17日(水)	福音的な小さい道	今泉健神父
	10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
	11月 12日(水)	死者の月に祈る	今泉健神父
	12月 17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年	1月 14日(水)	神の国は近づいた	今泉健神父
	2月 11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
	3月 25日(水)	神のお告げ	今泉健神父

【四旬節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	3月 8日(土)～ 3月 9日(日)	十字架と信仰	九里彰神父
	3月 22日(土)～ 3月 23日(日)	人間となった神の子へのキリストの信仰	松田浩一神父
2015年	2月 28日(土)～ 3月 1日(日)		
	3月 28日(土)～ 3月 29日(日)		

【待降節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	12月 13日(土)～ 12月 14日(日)	神の子の誕生	九里彰神父

【聖テレーズの黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	9月 30日(火)～ 10月 1日(水)		伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】

・ 3泊4日 (午後8時～午後3時) 限定10人			
2014年	5月 3日(土)～ 5月 6日(火)		松田浩一神父

【カルメル青年の集い】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 4月27日(土)～ 4月28日(日)

今泉健神父

11月23日(土)～11月24日(日)

今泉健神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 2月8日(土)～ 2月9日(日) 「イエスの聖テレサ的カルメル霊性 NO. 2」

松田浩一神父

10月14日(火)～10月15日(水) イエスのテレサ生誕500周年開始

松田浩一神父

【奉獻生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

今泉健神父

12月27日(土)～ 1月5日(月)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月16日(木)～ 4月20日(日)

{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木)

{講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

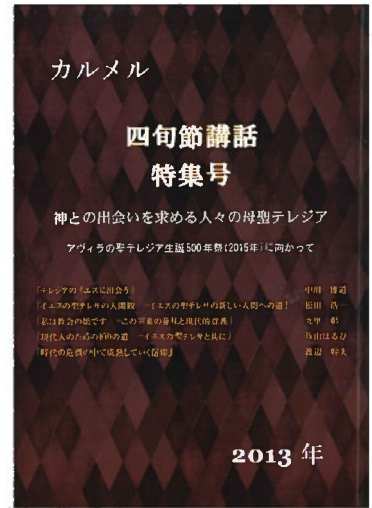
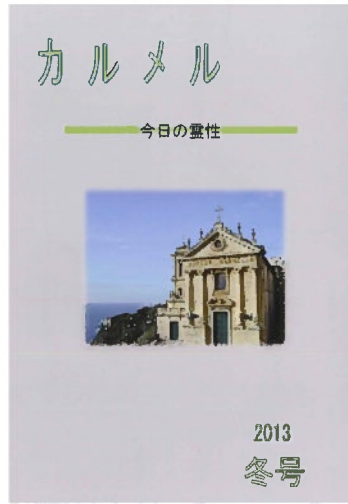
【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「カルメル」
今日の靈性・冬号
四旬節講話特集号



キリストの慈悲によってベルナルディーノ・
デ・メンドーサを煉獄から救った聖テレジア



カルメル 2013 特集号

2013 冬 No.351

「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

砂漠の修道院に入る (7)	奥村 一郎	56
キリスト教と革新(確信) ——奥村神父とわたくし (2)	谷口 正子	48
西行と芭蕉の靈性 (2) ——「おくのほそ道」の旅から (1)	田畑 邦治	41
修道院生活 春夏秋冬 (10)	高橋 重幸	35
人を育む靈性 ——エディット・シュタインの教育論 (3)	須沢 かおり	28
生活のなかのカルメル 「花びらをまく」 ——H々の苦勞をささげる	中山 眞里	21
修道院の窓から (2) ——朝	原 造	17
信仰年 聖テレサに導かれて (4)	伊従 信子	9
信仰を生きる (4) ——アピラの聖テレジアの信仰理解	九里 彰	3
● 目次 ●		
時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺 幹夫	51
現代人のための祈りの道 ——イエスの聖テレサと共に	片山 はるひ	37
「私は教会の娘です」 ——この言葉の意味と現代的意義	九里 彰	24
イエスの聖テレサの人間観 ——イエスの聖テレサの新しい人間への道	松田 浩一	12
● 目次 ●		
テレジアのイエスに出会う	中川 博道	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(＋送料140円)】を
下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号
【460円×5=2,300円】＋送料【700円】
計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2014年度 名古屋霊性センター 《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』
中川博道神父（上野毛修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』
今泉健神父（宇治修道院）
- 第3回静修 5月31日（土）＊ テーマ未定
古川利雅神父（上野毛修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：
人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月予定
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』
九里彰神父（本部修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分
聖テレジア幼稚園隣接)
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- * 定員 約30名

- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 13:00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。
なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

- M1 2/9 (日) -2/15 (金) 宝塚売布・女子ご受難会
- N1 2/24 (月) -3/2 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子ご受難会
- K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S2 10/5 (日) -10/11 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N3 10/26 (日) -11/1 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

真命山の霊性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

祈りの集い（午前10時～午後3時）

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）



●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:
超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[中世末期] 02/01,02/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45

分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトウルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時
聖イグナチオ教会マリア中聖堂

どなたでも。但し祝日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右、テレジア小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み
・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトウルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

2014年

03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)

[関西]

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
2014年1月25日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

2/07

結婚と独身— 愛の道

2/14

信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている

2/28

人間の苦悩— 悪とは何のためか

3/07

死— その受け入れと克服

3/08-9

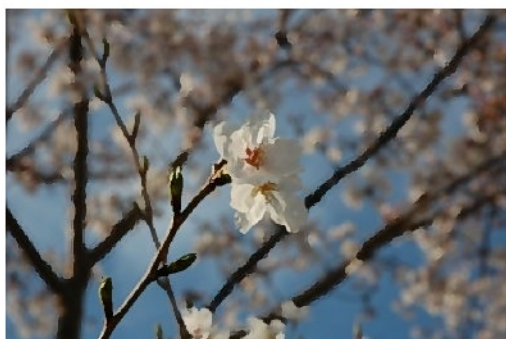
●黙想会(上石神井)

3/14

人生の完成— 神の内に生きる

3/28

聖母マリア— 信じる者の原型



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[信仰の実現]

2/04

秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

2/18

祈りの本質と霊的読書— キリストとの心の交流

3/04

創造的霊性— 活動における観想

3/08-9

●黙想会(上石神井)

3/18

「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2月15日「わたしを待っておられる神」
3月15日「神のまなざしに出会う」
4月26日「復活のキリスト」

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

主に選ばれる恵み

見なさい、あなたの母です

2014年 第四回 召命黙想会

日時：**2月15日(土) 15:00～**

16日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：2014年2月9日(日)

<申し込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
日帰り	3/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
サダナⅡ	3/19(水)17:30- 3/23(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門A	4/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナⅠ	4/26(土)17:30- 4/29(火)16:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/2(金)17:30- 5/6(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/10(土)9:30- 5/11(土)17:00 5/17(土)9:30- 5/18(土)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
ダイアリー	5/28(水)17:30- 6/1(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り = サダナⅠを終えた方



*サダナⅠ

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

2月18日(火) 最終回：『完徳の道』第42章 + ミサ



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル
TEL : 03-3351-7121 (受付代表)
<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂 (ミサ有り)

2月20日(木) 『靈魂の城』第6の住居・第2章
4月10日(木)、6月12日(木)、9月11日(木)、11月13日(木)

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

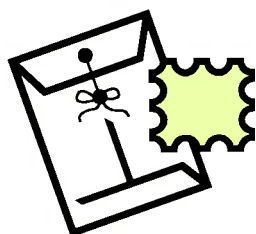
* 参加費無料 (献金歓迎)

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

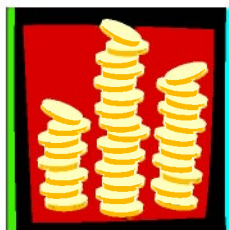
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、テレビで仮想マネー、Bit コインなるものを知った。各国の通貨制度を飛び越え、世界中の国々と取引することが可能となったとのことである。だが便利である反面、通貨制度そのものを破壊する危険性が出てきており、さらに売り買いがインターネット上で秘密裡に行えるので、麻薬等の取引に使われ、犯罪の温床にもなりつつあると言う。

いずれにせよ、グローバリゼーションは、あらゆる分野で起きており、宗教や文化の異なる国々との交流は今まで以上に緊密になっていくことだろう。

そこで求められてくるのは、人間として誰もが守るべき普遍的モラルではないだろうか。十戒の「父や母を敬え。殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証してはならない。隣人のものを欲してはならない」は、どの宗教にもあり、人間の歩むべき基本的な道筋を指し示している。

この当たり前のことを守らなくなる時、人は罪の穴に落ち込み、社会は混乱していくのだろう。平気で嘘をつき、約束を破り、人をいじめ、傷つけ、自己中心で不誠実な人々がこの世にはびこり、「正直者は馬鹿を見る」ことになる。しかし、人の目はごまかせても、神の目をごまかすことはできない。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「3月号」製本日

[2月25日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171